

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/1

団体名	NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト	活動タイトル	子ども・子育て家庭のサポーター養成事業						
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景						
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち一人一人が置かれた環境に関わらず、自分の未来に夢と希望をもって生活ができる環境が整っている。 子どもやその保護者が、安心して過ごせる地域を市民が自発的に関わりながら作っている。 		活動風景①	 <p>子ども・子育て家庭のサポーター養成講習会の様子① 3/23～5/25の毎週木曜日(全20コマ/9日間)に開催し、毎回20名程度の参加者が受講。</p>					
●団体の社会的役割(ミッション)	妊娠期から思春期まで切れ目のない支援を行いながら、いきいきした子ども達の世界を守るために行政や地域社会と連携し、子育てを支えるネットワークと、その中心となる場づくりを進める。								
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちや保護者が抱える、複雑多様化する課題に対応できる人材を、長野市全域で育成。 今後さらに増えていこうとする要支援児童やその保護者に寄り添った支援（子どもたち一人一人の状況に合わせた支援）を届ける体制基盤を整備。 子育てを孤立させず、地域全体で子どもやその保護者を見守りサポートしていける仕組みを提案していくことで、若い世代が気軽に頼れる環境づくりを行い、行政や企業支援との連携を図る。 								
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)						
<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大による環境の変化に伴い、子どもや保護者が抱える課題が複雑多様化する一方で、支援を求める場は減少しているといった現状を受け、子ども・子育てサポートの基盤強化事業を実施。子育てを孤立させず、若い世代が気軽に頼れる環境づくりを行うために、長野市全域を対象に子ども・子育て家庭のサポーターを育成し、既存事業などへのコーディネートを行った。</p> <p>子ども・子育て家庭のサポーター養成講習会には、長野市内外から41名(新規18名/既存23名)が参加登録し、全20コマの講習に毎回20名程度が参加し、各専門家から子どもや子育て家庭の現状や支援のあり方について学びを深めた。満足度・理解度ともに、8割以上の参加者から高評価を得られ、子ども・子育て家庭への支援意欲を高めることができた。</p> <p>学びを深めたことで支援の必要性を実感する一方で、実践に入ることに不安を感じる参加者もあり、新規18名の事業実践率は5割程度に留まっている(8月現在)。様々な活動提案を行いながら、参加者それぞれにあった活動参加を促していきたい。</p>			<p>これまでの活動ノウハウを活かし、医療・学校関係者や行政職員、活動者など18名の外部講師を調整しながら、子ども・子育て家庭のサポーター養成講習会(20コマ)を企画。今を生きる子どもや保護者の現状や支援体制について学びを深めるとともに、実践スキルを身につけていただいた。参加者アンケートでは、「社会を取り巻く環境が変化し、経済的にも大変な家庭が多く、精神を病む親子もいる。そんな方たちの心の支えになりたい」「子どもたちが抱える悩みや問題が今と昔で変化の中で、自分自身がどんな役割を持てるのかを学びました。また多方面に子どもと関わる分野があること、子どもから学ぶ姿勢が必要であることを知りました」「実生活ではあまり触れる機会がなかった課題を抱える家庭の実態をデータでみることができた」など、子どもや子育て家庭の立場に寄り添い、積極的に関わってほしいとする意志が窺えた。また、より多くの方たちに子ども・子育て支援の大切さを伝える場として、定期開催を希望する声も多く聞かれた。</p> <p>子ども・子育て家庭のサポーター養成と合わせて、サポーターが活躍するための体制づくりを行い、既存事業へのコーディネート及び、子育て世帯への情報発信などを行った。</p>		活動風景②	 <p>子ども・子育て家庭のサポーター養成講習会の様子② 養成講習会では、実践を通して参加者同士の交流を深めながら、各専門家から学びを深めた。</p>			
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題						
<p>「子ども・子育て家庭のサポーター養成講習会」として打ち出したことで、子ども・子育て支援を幅広く捉え、事業の枠を超えて共通の学びをともにすることができた。またそのことで、各事業に参画するきっかけづくりにもつながった。</p> <p>また講習会参加者からは、学びを深めることの大切さや、子ども・子育て支援の大切さを伝える場として継続を求める声が多く聞かれ、啓発活動の重要性を改めて実感した。</p> <p>一方で、深刻な課題にふれたことで、実践に入ることに不安を感じる参加者もあり、一歩を踏み出すためのサポートや、育成後の継続的な支援体制の重要性を痛感。新規育成の場と合わせて、スキルアップの場の提供や、事業の枠を超えた活動者間での情報共有の場を設けながら、活動者が新規活動者の育成に関わりながら、思いをシェアしていく仕組みづくりを学んだ。</p> <p>実習を通して、子育て世代と直接的な関わりを持つことで学びを体感し、実践への思いを強くしていただいた。子どもや子育て家庭との接点づくりもまた重要だと感じた。</p>			<p>子ども・子育て家庭のサポーター養成講習会を通して、「地域で子ども・子育てを支えていこう」という理念を発信し、参加者から賛同を得られた一方で、活動への一歩に躊躇する方も多く、各事業担当者や連携しながら、丁寧なコーディネートをしていくことが必要だと感じた。各事業への適性や個人的な相性など、コーディネーターに求められるスキルも高く、子ども・子育て家庭のサポーター育成と合わせて、各事業担当者及び子ども支援全体のコーディネーター(子育てコンシェルジュ)間での情報及び学びの場の共有が必要である。</p> <p>子どもや子育て家庭の現状や、現代の子育て手法を広く発信していくことで、世代間の子育てに関する考え方のギャップを解消し、現代の子育て世帯に寄り添った支援が届けられる人材を育成していくことが重要である。また、現代の子育て世代が過去の子育てについて知る機会を設けることもまたすれ違いをなくす一助となると考える。</p> <p>地域全体で見守りサポートしていける環境を整えていくことで、支援から抜け落ちていく家庭を減らしていくための積極的なアプローチも必要だと考える。</p>		<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <table border="1" data-bbox="2041 1537 2855 1738"> <tr> <td data-bbox="2041 1537 2237 1738">この1年間の活動を通じて</td> <td data-bbox="2237 1537 2653 1738">子ども・子育て家庭のサポーター育成モデル</td> <td data-bbox="2653 1537 2855 1738">を達成しました。</td> </tr> </table> <p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>育成した子ども・子育て家庭のサポーターと子どもや保護者が、実習や活動を通して直接的に関わることで、地域内での顔の見える関係が生まれ、世代を超えた交流を通して子どもや保護者の安心・安全への満足度につながっている。</p>		この1年間の活動を通じて	子ども・子育て家庭のサポーター育成モデル	を達成しました。
この1年間の活動を通じて	子ども・子育て家庭のサポーター育成モデル	を達成しました。							